

京都大学高大連関プロジェクト

2003年（平成15年）からスタートした高校講座に、初年度より参画している。

以下の感想文は、2005年度に実施した公開講座に参加した滋賀県立膳所高等学校生徒の感想である。

---

京都大学特別授業 生命科学Bコース

第3・4回「認識の生物学」

基礎物理学研究所 村瀬雅俊



・ とても難しい内容でしたが、意義のある講義でした。1週目では、認識について深く掘り下げてお話くださって、1つのことでも様々な見方ができるし、また見方によって無限に広がるのだということが分かりました。だから、広い視野を持つことは大切なんだと感じました。2週目の講義では、先生の実体験に基づいた話であっただけに、現実味を帯びていて、講義内容が身に迫った問題であると思いました。今までも、電磁波が人によい影響を与えないということぐらいは知っていました。しかし、そんなに大した影響はないだろうし、みんな使っているのだから大丈夫だろうぐらいにしか思っていませんでした。ところが、これが大きな間違いなのだ今回の講義で気付かされました。今、身の回りにあふれていて、生活になくってはならないものとなっているものが、人体に大きな影響を与えているという事実を、しっかり受け止めなくてはいけないし、先生もおっしゃっていたように、そういった害から身を守るには、「知る」ことしかないんだと痛感しました。

・ いつも使っているヘッドホンからの電磁波が人体を害するとは知らなかったのが、怖いと感じましたが、1度携帯電話やヘッドホンの便利さを知ってしまったので、手放すに手放せません。どうすれば良いのか、私には全く分かりません。なので、使わない時はコンセントを抜いたり、電源を切ったりしたいと思います。電磁波の危険性を教えて頂いて本当にありがとうございました。

・ 今回の講義は、すごく衝撃的でした。電磁波については、私たちの身の回りにある、あらゆるものから出ていると考えた方がよいみたいです。ただの磁石からでさえ出ているなんて、思いもよらなかった。出ている、ということよりも、与える影響が怖いと思います。遺伝子にダメージを与える、ガン、精神……、様々な恐ろしい事実を聞いて、このままでは生活していけないと心配になりました。私は、携帯電話も使いますし、テレビ、パ

ソコン、ホットカーペット、電子レンジ、もちろん電気もつけます。それらから、そんな悪影響を受けているなんて……、しかしそれらなしに果たして生活をしていけるかどうかは疑問です。先生のお話の中に、人体への影響を考えない【知らない】工学者がそういったものをつくっていることに問題がある、ということがありましたが、やはり日本でもあらゆる分野と連結して開発をしていくべきだと思いました。利益だけを求める時代は終わったのだと思います。これからは、地球環境だけでなく『自分』を守るために、考えていかなければならないのだろうと感じました。また、『わかる』ということをお話いただきましたが、いろんなことがばらばらになっているのを、整理することなのかなあ、と思います。いっぱい洋服を買って、それをタンスに、季節とか利用頻度とかを考えながら片付けるような。また、数学の集合のイメージも持ちました。探すのは"U"のときもあれば"∩"のときもあるのかなあっと。いろんな要素を意味を考え繋ぎあわせる、そんな風に私はとりました。先生がおっしゃっていたこととは違うかもしれませんが……。今回は、先生御自身の体験を含め、お話いただいてすごく危険を身近に感じることができました。『知らない』ということがどんなに怖いことなのか、知りました。勉強することの、本当の意味を知りました。中身の濃い、2時間でした。本当に、ありがとうございました!!

・ シックハウス症候群。昨日までの私にとってそれは「違う世界のもの、関係の無いもの」でした。しかし、この授業を受けてから、このシックハウス症候群がどれだけ身近に存在し、どれだけ危険なものなのかを思い知らされました。そして、電磁波。私達高校生ならほとんどの人が使用している携帯電話や、パソコン、それに蛍光灯やホットカーペットまでもが私達の体にこれほど莫大な影響を与えているなんて、全く知りませんでした。しかも、多くの日本人がこのことについて全く知らないというのです。これは大変なことではないのか。こんな事を日本は隠蔽しているなんて信じられない。このままだと将来、日本人の体はどうなっていくのだろうか？そう思うととても恐ろしくなりました。このまま放っておくことは絶対にしてはいけません。私達に何か出来る事はないものか、と考えてみたものの、今の私に出来ることと言えば電磁波の怖さを知り合いに伝える程度のもので、しかし、少しでも多くの人に知ってもらいたいと思うので、学校の友達や親戚など、出来るだけ沢山のの人に伝えていきたいと思います。

・ 今回は第三、四回と二回に渡って講義をしてもらったが本当にいろいろなことがわかった。先生もおっしゃっていた通り、簡単な言葉で簡単な内容に見えるが非常に高度な内容だったと思う。前半の講義では、化学を学ぶ点での考え方を根本から教えてもらったが、なるほどと思うことばかりだった。ガンは人間だけがかかるものではないというのは、考えれば有り得ることだが全く気づかなかつたし、錯覚についても、決まった見方しかしていなかったし、化学において先入観や決め付けなどは取り除かなければならないことがとても実感できた。また後半では特に電磁波などの話が印象的だったが、恐ろしいことばかりだった。電磁波によって体に及ぼす影響は大変さまざまなことがあり、しかも日常で使っている電化製品などから電磁波は大量に出ているという事を聞いて、本当に恐ろしいと思った。完璧に防ごうと思えば普通に生活することはできないので大変なことだと思う。カーペットの話で、アメリカでは電磁波の出ないものが売られているのに対し、日本では

いまだ売られていて、なおかつ電磁波のことはあまり公表されていないと聞いたときはそれは良くないことだと思ったが、実際は微妙なところだと思う。実際に公表してみたとしたら、より安全な製品等が造られるということには期待できるけど、気にする人は電化製品が怖くなったり、外に出られなくなるようなことも起こると思う。完璧に防ぐことはできないけど、これからはできる範囲で意識しようと思う。高校では学べないような内容で、今回もとてもためになる授業だった。

・今回の講師の村瀬先生自身が数年前に化学物質依存症にかかったというせいか「日常のあたりまえのものが毒になる」という言葉が一番印象的です。また、携帯電話などの電磁波はアトピー性皮膚炎を悪化させるというのに驚きました。私には関東で一人暮らしをしているアトピー性皮膚炎にかかっている兄がいますが、彼が夏休みなどに家に帰ってくるたび向こうにいた時は治りかけていた皮膚炎が酷くなる原因がわかりました。

・第三回の講義は言っておられる事が難しすぎて断片的にしか内容がわからなかったのですが、第四回の講義の電気製品から出ている電磁波のお話はとても身近でわかりやすく、そして恐いものでした。現代の人々は確かに電磁波に囲まれて生活しています。でも多くの方は今までの僕と同じように電磁波の危険を理解していないと思います。携帯電話やウォークマンといったものは「人体に害がある」ということは知っていても気持ちのどこかで「たいしたことはないだろう」、「みんな使っているから大丈夫だ」と考えていたように思います。だから今回のように実際のデータを見せてもらったのも初めてでしたし、電磁波過敏症というのも初めて知りました。家の中にある電化製品を全て取り去るのはなかなか難しいですが、それらを使用するときは自分への影響を意識するようにしようと思います。

・身近にある電磁波や電波が、私たちに深く影響を与えていることが分かった。初めて聞いた時は普通に「へえ・・・そうなんや。」と軽く、客観的に思っていたが、話を聞いていくうちに、だんだん恐くなってきた。今、私の傍にあるケータイも、頭上にある蛍光灯も、冷蔵庫からデジタルの目覚まし時計まで、すべての「電気」を必要とする物からは、強さは異なるものの「電磁波」は出ている。そう思うと私たちはいつも危険と隣り合わせになっていることが分かる。ヒトの脳の中には、磁石のような物がある。当然、その磁石も狂ってしまう。狂ってしまうと、それは身体的症状として現れてくるという。今回の講義を聴いて、少し機械類から離れてみようと思った・・・が。講義終了後、一番にケータイを開けている自分がいた。思わず溜め息がでてしまった。あまりにも、電磁波を発する物は私たちの身の回りに大量にある。またそれらと共に生きているためか、便利さのあまり手放すことさえ出来なくなって来ている。機械と私たちの関わりをもう一度改めて、これから生きていきたいと思います。

・今回の講義は本当に驚くことばかりで(反応が薄くてすいませんでした。反応できないほど驚いていたんです)、自分の身の回りには僕が知らないだけで、身体に影響を与えるような危険な物(や自分達の行動)があると知って、色々な事が恐くなりました。特に、携帯

電話を使用して十年後には癌になる確率が二倍になるというのは聞いていたのですが、使用頻度に関係がないというのは初耳でした。色々と考えさせられる講義でした。

・ 最初、講義の内容が私には難しすぎて、『抽象的にじゃなくてもっと具体的に説明してほしい…』とか、『こんなことがどうして基礎物理学と関係あるんだろう…』などと思っていました。けれど、第二回目の講義で、自分の頭の中のキーワードが全て繋がったようで、とても気持ち良かったです。ただ、未だに①全ては否定から始まる②科学は常に成り立つわけではない ということがイマイチよく分かりません。

・ 今回は連続の授業でしたが、前回の授業を休んだため全部の内容は分からなかったけれど、とてもすばらしい講義でした。特に電磁波のことについては、自分の生活している環境がいかに電磁波に汚染され、かつそのことに大部分の人が気付いてるいないことに大きなショックを受けました。このショックが一時的なものにならないように、教授の話を参考に考えを深めていこうと思います。また湯川博士に関係のある建物で講義を受けられて、とても光栄でした。ありがとうございました。

・ 今まで聞いたことはあっても一度も詳しく調べたことのなかった電磁波やシックハウスのことについて最新の研究を見せていただき、先生自身の症状や体験を織り交ぜた説明だったので大変新鮮で心に残りました。ずっと安全だと信じてきた電磁波に大きな害があるということはすさまじい衝撃で、携帯電話の電源をつけるのも怖くなりました。僕はテレビをミュート状態でつけたときのキーンという音が聞こえるのですが家族は聞こえないといいます。このように電磁波の影響に個人差はあるのかを一度研究してみたいと思いました。

・ 第3, 4回と二回続きになっていた授業の後半を欠席したので、後半がどういう内容の話だったのかがまったく分からない。とりあえず前期については正直に言うとうれしい力を入れて何かを説いているのだが、それが何のことかよく分からない。といった感じだった。考えているうちに何を考えていたのかわからなくなりそうな勢いだった。後半は前半より具体的な話が多かったということで、後半を聞いて前半がある程度わかったといっていた。後半に行けていればもう少し明確になったのかなと思う。